

# 「無理なく」「よい音」で吹く練習をするうちに、自然と理想的なアンブシュアが得られます

Euphonium

私は、よい音が出て自分の思う通りの音が奏でられれば、それがよいアンブシュアだと思います。よいアンブシュアを作るには、最初に形から入るのはなく、無理のない音域でよい音で吹くことを念頭に練習しないといけないでしょう。単に音が出るということではなく、「音をよくしていく」ということを大切に練習すれば、自然とよいアンブシュアや奏法が備わっていくでしょう。ただ私も含め、マウスピースに対する上唇と下唇の割合は、2:1が一般的なようです。

## ●私のアンブシュア歴史

私は中学生のときに先生から、「唇を横に引きすぎて押しの強い音になつていて、鏡を見ながら引かずに吹けるように」と指導を受けたのですが、すでに癖で唇を引かないで全く音が出ない状態だったので、中学生のときは結局そのままのアンブシュアで吹きました。でも少し吹くと頬が疲れてしまつたり、マウスピースも押しつけて吹いていたらしく、口に当たるところが痛かったです。唇を引いてマウスピースを押しつけて…今考えると悪い見本のような吹き方でした。

高校の部活では、基礎練習でロングトーン、インターバル、リップスラー、タンギング、スケールを必ず毎日みつかり練習していましたが、きれいな音で吹くように気をつけていたら、気がつくと唇を引かなくて音が出せるようになつており、頬やマウスピースが当たるところの痛みもなくなっていました。

大きく変わったのは大学時代です。ある日練習しながら、自分が人を教えるときに言つていることを思い出して音を出そうとしたら、「違

うアンブシュアをしていいことに気づきました…普通の状態に比べて唇が少し巻き気味になっている。よく考えてみると、以前から息の初速が速すぎて、ゆるやかな音が出ないことが気になつていたのです。そこで、唇を巻かずに吹こうとしてみたら最初は音が一つも出ない。でも一度気になつたらもう巻いた吹き方はしたくなくな、「これからやり直すしかない！」と決意して地道に練習をはじめました。

## ●アンブシュアの改造に着手

練習を始めた頃は、1

オクターヴも音がでなかつたので毎日がつらかったですが、「巻かない吹き方の方がきっとよい音が出る」と信じて練習しました。すると、1オクターヴが出なかつたのは最初の1週間くらいで、むしろ力を抜いたアンブシュアに変えさせいか吹いていられる時間が長くなり、一日中練習していたら3か月後には以前の音域が自然と出るようになりました。

そのときに行なった練習は、ゆっくりしたテンポでのロングトーン、インターバル、リップスラーなど、本当に初心者がやると同じような内容でした。

その際のメニューは自分で考えたものでした

### クローズアップ・アンブシュア☆庄司さんの場合



セッティングその1 頬は自然に前を向いて、そこにマウスピースを持ってきてバズイングする。マウスピースに対して、上唇2:下唇1くらいの割合



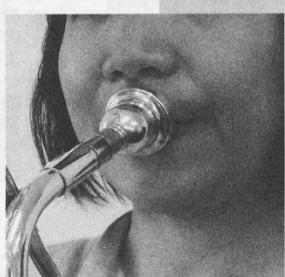
中音域をフォルテで。強く息を出すときにアンブシュアを保つために頬に張りがでてくる。最初から形を作るのはなく、結果的にそうなるのが望ましい

昨年シエナ・ウインド・オーケストラの新メンバーになった庄司恵子さん。学生時代にいろいろと悩んだ「アンブシュア」について、貴重な体験談を交えて教えてくださいました。



## ●効率のよい振動が得られるように

今でも自然で効率のよい音の出し方には気



低音域をメゾ・フォルテで。低くなるほどリムの内側全体を使って振動するようになる



中音域をピアノで。少しの息でも唇が振動するようにリラックスしている

をつけていて、ウォーミングアップでは、自分の息に敏感に反応する繊細な唇の状態になるようになります。「振動をおこす」ではなく、「振動がおこる」ような、リラックスした効率のよい音の出しがですね。少しの息でもよく振動する唇であれば耐久力も長くなります。【写真】を参考にしてみてください。

また今回は、他の金管楽器の方もレクチャーされるということなので、トロンボーンなど、他の楽器のページの説明も読んで、参考にできることとは試してみるとよいと思います。